



かけはし

皮膚科特集

No.70 平成26年8月31日発行

武田病院グループ経営理念

●思いやりの心

武田病院グループ基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利の尊重
- 地球にやさしい環境づくり

宇治武田病院 基本方針

1. 安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
2. 地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
3. 患者さんとの良い信頼関係を築き、人間としての尊厳を重んじる医療を行います。
4. 患者さんを「私たちの家族」と考え、最良の結果が得られるように最善の努力を払います。
5. 環境にやさしい病院を目指します。
6. 働きやすい労働環境を創造するために、お互いを尊重する人間性豊かな医療人を目指します。
7. 仕事を通じて社会貢献できるよう努めます。

体表面のすべての領域対象

皮膚は身体の表面すべてを覆っており、生命を維持するために様々な機能を持っています。

当科では湿疹、水虫といった日常皮膚疾患だけでなく、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹などのアレルギー関連疾患や、また皮膚科特有の疾患である尋常性乾癬や水疱症などの診療を行っています。また院内の褥瘡対策にも取り組んでおり、チーム医療を心がけています。

専門疾患も多岐に

●アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー性皮膚疾患

外用内服治療を中心として、スキンケア、生活指導などを行っています。必要に応じて血液検査をお勧めすることもあります。

蜂窩織炎



糖尿病性潰瘍から感染した足蜂窩織炎

●感染性疾患

蜂窩織炎は皮膚の真皮深層から皮下組織に、黄色ブドウ球菌などの細菌が侵入して起こる感染症です。痛み、腫れ、発熱などの症状が見られ、抗生剤による治療が行われます。その他単純ヘルペス、帯状疱疹などのウイルス性疾患があります。蜂窩織炎、帯状疱疹については、重症の場合、入院治療の適応としています。

的確な検査と診断

診察室で施行できる検査として、直接鏡検法、真菌培養、ダーモスコピーや、皮膚生検、金属アレルギーのパッチテストなどがあります。その他には血液検査や、超音波検査やCT検査などの各種画像検査も行っています。

金属パッチテスト



金属の成分を染み込ませたものを背中や腕に貼り付けます。48時間後に剥がして反応の有無を診察します。(状況によって検査不可能なことがあります)

良性皮膚腫瘍は日帰り手術で

良性の皮膚腫瘍は局所麻酔による外来での日帰り手術を行っています。メスによる外科的切除のほか、電気メスを用いた焼灼なども行っています。当科で対応困難な病変は、必要に応じて当院形成外科や、京都大学附属病院などの高次医療機関にご紹介しています。



皮膚科 医長

山口 綾 (やまぐち あや)

平成17年 国立精神・神経センター国府台病院にて臨床研修医
平成19年 京都大学附属病院 皮膚科に入局

その後京都医療センター、公立豊岡病院(兵庫県)、医仁会武田総合病院を経て、平成26年4月当院着任

所属
日本皮膚科学会 認定専門医

モットー:薬剤の使用については治療の根幹であり、量や用法、使用を終える時期などについて適切で確実な指導を心掛けています。

爪の病気

爪の疾患で最も多いのは爪白癬です。近年は抗真菌薬の内服療法によって治癒率が向上しています。その他には陥入爪・巻き爪があり、当科ではマチワイヤーによる矯正や、シリコンチューブによるガター法など、幾つかの方法を組み合わせる治療を行っています。保存的療法で対応困難な場合は、フェノール法による部分抜爪も行っています。痛みの除去や爪甲の矯正、爪本来の機能を取り戻せるように努めています。



皮膚科

小髙 綾子 (こじま あやこ)

平成19年3月 広島大学 医学部 卒業
 平成19年4月 医仁会武田総合病院 研修医
 平成21年4月 京都大学医学部附属病院 皮膚科
 平成21年10月 医仁会武田総合病院 皮膚科 勤務
 平成25年10月 宇治武田病院 皮膚科 勤務

所属
 日本皮膚科学会所属

モットー:患者さんの訴えに耳を傾け、侵襲の少ない治療を心掛けています。

治療前



爪の陥入で生じた不良肉芽

陥入爪

3か月後

治療後



フェノール法による部分抜爪を行い、ガター法および外用治療併用にて改善

適切なステロイド治療

ステロイド外用剤は過去に副作用問題が指摘されたことから、現在でも「怖い薬」とのイメージを持ち、使用をためらう患者さんがおられます。「ステロイドを塗ると皮膚の色が黒くなる」とよく言われますが、これは誤解です。アトピー性皮膚炎やかぶれなどが原因で皮膚に炎症が起きると、治った後に炎症後色素沈着と言って、皮膚が茶色に変化した状態になります。これはあくまでも一過性の変化であり、日焼けや火傷の後に皮膚の色が黒ずむのと同じ原理です。炎症のない状態を保つことで徐々に通常の皮膚の色に戻っていきます。当科では日本皮膚科学会のガイドラインに基づいて適切な治療を行い、薬の減量や塗り方などのアドバイスを行っています。

マダニに刺されたら

マダニは公園やキャンプ場の草むらなどに潜み、ヒトの体温や匂い、振動、二酸化炭素などを感知して飛び移ってきます。活動が活発になるのは春から夏にかけての季節です。マダニにかまれても気づかない場合が多く、初めはかさぶたのように見えるのですが、吸血によりどんどん体が大きくなり、元の100倍のサイズになることもあります。無理に取るうとしてマダニの体を掴むと、マダニの体液の逆流を招き、ライム病や最近話題のSFTS(重症血小板減少症候群)の原因となる病原体に感染するリスクが高まるため、自己処置は行わずに病院を受診することをお勧めします。



マダニ:吸血中の虫体
 通常は黒色であることが多いですが、このように黄色や、場合によっては緑色のように見えることもあります。

地域医療連携室

今回は、4月より2名体制となりました、皮膚科についてご紹介させていただきました。記載のとおり必要に応じて入院治療も行っており、子供さんから高齢の方まで幅広く診察させて頂いております。ご予約の際は、地域医療連携室までご連絡ください。

診察日

月	火	水	木	金	土
山口 小髙	山口	小髙	山口 小髙	山口 (1・3・5) 小髙 (2・4)	休診



担当 田村 梅垣 高山 仮屋園

▼地域医療連携室(直通) TEL 0774-25-2062/FAX 0774-25-2660

E-mail renkei-u@takedahp.or.jp